

支え合いのまち 稲毛

 稲毛区地域福祉計画推進協議会だより No. 16

平成26年3月10日発行

編集：稲毛区地域福祉計画推進協議会事務局

稲毛区穴川 4-12-4（稲毛保健福祉センター内）

TEL：284-6282 FAX：284-6193

住民一人ひとりからはじまる「困った時はお互いさま」

地域で広げよう！助け合い活動

人は誰でも困りごとに直面します。一方で、人のために何かをしたいと思っている人がいます。困っている人を助け、困った時には助けてもらう「お互いさま」の活動が地域で展開されています。今号では、防災活動、ラジオ体操、見守り活動などを通じ、集合住宅での新しいコミュニティづくりに取り組んでいる「レーベンハイム西千葉自治会」を紹介いたします。

～灯(ともしび)を消さない活動～

レーベンハイム西千葉自治会

レーベンハイム西千葉は、平成18年に入居が開始され、8年目を迎える192世帯数のマンションです。入居1年目で「自治会設立に関する議案」が管理組合総会で可決しましたが進展せず、平成22年に自治会設立準備委員を募り、9名の協力者により、入居から5年目にしようやく自治会設立総会を開催するに至りました。

この時の自治会加入数は99世帯でした。その後、管理組合の業務の一部を自治会が補完していることや、イベント開催時に自治会の会員と非会員で不公平感が発生する等のことから、平成24年に「管理組合の管理費より自治会費を支出する」ことが決まり、現在は全戸が自治会に加入する体制となりました。



様々な活動が「住民..をつなぎます

【AED取扱い講習】

自治会が補完している管理組合の業務

- ① 官公署、町内会等との渉外業務
- ② 風紀秩序、及び安全の維持に関する業務
- ③ 防災に関する業務
- ④ 広報及び連絡業務
- ⑤ 共同の利益(リサイクル収入)を増進し、良好な住環境を整備する業務

非常口



現在、自治会設立から3年目を迎え、社協301(作草部・天台)地区部会の「いきいきサロン活動、子供部やシニア部活動、防犯パトロール、防災活動、毎朝ラジオ体操」等を実施しています。マンションでは「隣近所との付き合いはあまり必要ない」という傾向が強いため、掲示板や回覧でチラシを打っても参加人数が少なかったり、自治会に登録しない世帯もおられます。住民台帳を作成しようとアンケート調査を行っても、こちらが思うようには返答が集まりません。

そうした日頃からの経験や勉強会に出席して得られたことは、「できる人ができることから無理せずに活動する」という、ゆるやかなコミュニティのスタイルです。日頃は互いに好き勝手でも、緊急時や困ったときには助け合いのできるマンションライフが理想です。参加人数の増加を見込んでも一足飛びでは実現しませんが、実績を求めるよりも、灯(ともしび)を消さないように地道に活動を続けていくことが大切と考えています。また、自治会としては日頃からの『向こう三軒両隣』の関わり方を広げていくことが、防犯・防災・ゴミ捨てルール・いたずら等のトラブル減少につながるものと活動しています。

挨拶運動、マンション内の切手のいらない年賀状運動の他、見守り活動も始めました。“何をしたら見守りになるのか”と試行錯誤の段階で、始めは支援を求めている人への電話がけのみの活動でしたが、災害時には誰もが見守りの対象になるわけです。子供もお母さん達もシニア層も含めて互いを知り、仲良くなるためにお茶会や地域散策など実際の顔合わせを重視した活動を計画しています。見守りの電話でも相手から断られるケースもあり、担い手さんの負担への気遣いも必要ですし、緊急の場合の体制も整える必要があります。

「見守る人」と「見守られる人」との信頼関係を築くことが第一の目標です。

支え合いのまち 稲毛

稲毛区地域福祉計画推進協議会だより No. 16 【平成26年3月10日発行】

～ 次回発行は26年11月の予定です ～

－ 平成 25 年度第 3 回稲毛区地域福祉計画推進協議会開催報告 －

今年度に取り組む2つの重点取組項目

○活動の中核となれる人材の発掘

〈第1分科会〉

○災害時に対応した地域住民の研鑽を図る

〈第2分科会〉



【活発な意見が交わされます(第1分科会)】



【地域の事例も紹介されます(第2分科会)】



千葉市社会福祉協議会
マスコットキャラクター
ハーティちゃん

今年度第3回目の稲毛区地域福祉計画推進協議会(以下「区推進協」という。)が、2月27日(木)に稲毛保健福祉センターで開催されました。

第1分科会では、地域に住む住民の把握が人材発掘の原点であること、地域行事で従事される方を見極めての人材発掘、発掘も大事であるが中核となれる人材になつていただくための育成の重要性、地域を良くするためにボランティアで活動する方同士の目的の共有、人が持つ善意の力をどう発揮していただくかなど、人材の発掘、育成へのヒントとなる貴重な意見が出されました。

一方、第2分科会では、各地域において防災訓練が行われている中、東日本大震災発生後、参加者、協力者が増えたものの、なお不参加者も実在すること、防災への「無関心」の住民が多く、意識を高めてもらうための働きかけの苦労、災害発生時の要援護者への具体的な対応方法、どの自治会、地区部会においても、住民全体で足並みを揃えるのは難しく、課題であること、これらの解決に向け、問題意識や経験の共有を地道に積み上げていくことが必要であることなどが話し合われました。

各分科会終了後に開催となった本会議では、各分科会のリーダーよりそれぞれの分科会が出された意見の報告、委員相互による情報共有を図るとともに、各委員には地域へ戻り、計画を推進するために各種会合の際に区推進協で出された意見報告のお願いの後、区地域振興課から「安心室の職員より「災害時の対応と日頃の備え」と題した講話が行われ、委員一同災害に対する心構えや対応等の研鑽を図ることを確認し、閉会となりました。

－ 編集コラム －

東日本大震災から丸3年を迎えます。また、首都直下型地震がいつ起こってもおかしくない状態であると言われていて、防災訓練や防災組織の充実が急がれています。先日の思いがけない大雪に際しては、ご近所の普段はお目にかかることの少ないお父さんたち総がかりで、車の通る大通りや高齢者のお宅の前も自発的に雪かきをしている姿が見受けられました。

今年度は『人材の発掘』や『住民の研鑽を図る』というような表題を掲げましたが、いざという時には誰もが「助け合い」「支え合い」の精神を持っているのではないかと感じました。



